

# AJU愛実

## 第47号 会報

編集：特定非営利活動法人愛実の会

- ・愛実の会事務所
  - ・居宅介護事業所あみ
  - ・生活介護事業所障がい者デイセンター愛実  
(大地の家／愛実友だちの家／紙風船)
- 定価：一部100円

コロナ禍から希望へ／戸田 真二	．．．．．	P 1
大地の家	．．．．．	P 2
紙風船	．．．．．	P 3
映画「普通に死ぬ」～いのちの自立～より	．．．．	P 4
年寄り扱いされないよ。／島 しづ子	．．．．	P 5
寄付者名簿	．．．．	P 6



秋の壁画作り  
大地の家



希望の木（秋）  
紙風船

## コロナ禍から希望へ

理事長 戸田真二

秋から冬にかけ、新型コロナの感染は第三波襲来が懸念されています。幸いにも愛実の関係者には一人の感染者も出ていませんが、全く気を緩めることはできません。介護＝濃厚な接触です。マスクを付けられないメンバーも多くいます。ほとんどのメンバーは身体介護を必要としています。トイレ介助に食事介助、活動もマンツーマンで寄り添って行います。施設内は感染対策を徹底しながら、第一にメンバーとアシスタントの命を守ることが優先されています。職員自身やメンバーが、感染する、または人に感染させてしまう不安というストレスを感じながらも互いに笑顔を大切にしています。一方では外出活動は一斉出来なくなりました。イベントや人形劇の活動もできません。食事のスタイルも様変わりしました。そんなコロナ禍にあっても使命感を持って働いているアシスタントの皆さんには本当に感謝です。また、多くの方から応援のメッセージや、手作りマスクの寄贈もあり、温かさに触れることで希望を持つことが出来ました。

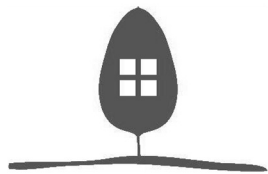
先の見えない不安から、気持ちの落ち込みや焦りとなり「コロナうつ」になる人がどんどん増えていることを聞きます。基礎疾患のある方や高齢者・障がい者は引きこもることでしか身を守れず、本当に試練が与えられています。まだまだこれからが本番なのかもしれません。もし医療崩壊が起これば……。ネガティブ思考はこうしてどんどん広がっていきます。毎日流れる日々の感染者数やコロナ関連情報に心囚われうんざりのはずが自らチェックしている自分がいます。どうしたらコロナうつから解放されるのでしょうか。多くの方が同じような思いにあることを感じます。

先日、コロナ禍の中、名古屋YMCA主催のチャリティーランのイベントに参加してきました。秋深まる名城公園1.5キロのジョギングコースをひとり一周走ります。私は膝が悪くて全く走ることができません。今回はスタッフとして沿道に立ち案内係です。幼児から大人まで、200名近くのランナーにもれなく声援を送りました。『あと800！ファイト!! がんばれ!!!』すると不思議なことに、目の前を走るほとんどのランナーの足取りに変化が見られたのです。歩き始めていた幼児が突然勢いよく走りだす。しんどそうな顔から笑みが。手を揚げて答えてくれる人。様々な表現で『ありがとう』の声が私の心に響いてきました。爽やか秋の空を見上げ、もう一度私も息を吹き返すことが出来ました。心から感謝の一日でした。



私たちの仕事はメンバーに寄り添うことです。一生懸命生きている目の前のメンバーを応援したいと思う気持ち。誰かのために役に立ちたいと思うことは「生きる」ことの原動力になります。人の温かさに触れる時、感謝の心が湧いてきます。そして、きっとここに、コロナ禍を乗り越えるヒントがあることを感じるのです。





# 大地の家

7月-10月

## 日常の繰り返しを大切に

今年も残すところわずかとなり、年の瀬が近づいて来ましたね。

皆さんは「今年にやろう!」と計画していたことはできましたか?

大地の家の当初の計画では、多くの外出やイベントを予定していました。

しかしそれらの行事は軒並み中止になったり、形を変えての実施となることが多くありました。

今年は梅雨寒、大雨、猛暑、残暑…と続き、外になかなか出辛く室内での活動が中心となっていました。8月の名古屋は猛暑日が22日もあったそうです。

秋になりようやく近くへ散歩に出かけることができるようになりました。

久しぶりにみんなで散歩に出かけよう!と外に出てみると、メンバーの表情も和らぎ、何人かのメンバーがニコニコとしていました。

「ああ、メンバーはみんなで外に出たかったんだなあ」と、その時つくづく実感しました。

室内でも、レクリエーションや音楽活動、工作などを中心に、毎日活発に活動を行っています。

人数が多くなるとにぎやかになりすぎることもあり、そのような時には日替わりで少人数の散歩チームを作って外にも出ていました。

しかし、外にみんなで出て会話をしながら、和気あいあいと歩くことが最近はありませんでした。

もちろんソーシャルディスタンスを保ち、密にならないように気をつけながら…の散歩ですが。

これまでも「何気ない日常の繰り返しを継続していくことが、重い障がいがある人たちには重要なのだ」と感じていました。

しかし振り返ってみると、日常を維持しているつもりでも、自然と中に閉じこもりがちになっていたのではないかと思います。

散歩に出た時のメンバーの笑顔によって、何気ない散歩にも意味があるのだと気づかされました。

今後も室内でも楽しく、外でも和気あいあいと活動や散歩をし、何気ない日常の繰り返しを大切にしたいと思います。





# 紙風船のページ

## 新作完成に向けて

新しい作品への取り組みが7月から本格的に始まっています。「裸の王様」を原作とした物語「裸にされた王様と大臣」は台本もおばら先生のお力添えで完成し、今はひたすら読み合わせのくりかえしです。メンバーもアシスタントも、実際に人形や体を動かさないとなかなか実感がわかず時にはくじけそうになりますが、10月には人形のデザインや操作方法などが固まりイメージが持てるようになってきました。



また、同時進行で「その後の一寸法師」という作品も手掛け始めました。なんとこの物語は、みんなが知っている「一寸法師」の続きを想像して創ったお話なのです。二つの作品は、2021年3月完成を目指しています。

新しい挑戦の一步を踏み出すメンバーたちをどうかこれからも応援してください！



## 継続は力なり

人形劇団は人形劇以外に何をやっているの？今年には公演活動がなく、一人ひとりのモチベーションを保つのが大変でした。公演ばかりか、いつものようなグループごとのお出かけもできず室内活動中心の日々…



そんな中、ずっと続けている活動に、表現活動として始まった「川柳作り」、体力維持のための「運動」そして人形劇団員として大切な「発声練習」などがあります。川柳作りは、メンバーも初めの頃とは比較にならないほど上手になりました。アシスタントが気づかない目線にハッとすることもあります。運動の時間には、主にバスケットやボーリング、歩行練習などで身体を動かします。そして発声プログラムでは言語の先生に月一回、発声方法や滑舌の指導をしてもらっています。紙風船のメンバーは、いつかまた公演が思いきりできる日のために、大切な活動を日々続けているのです。

## クラウドファンディングにご協力ください！

☆紙風船は新作制作の資金を集めるためクラウドファンディングに挑戦しています。

### 【期間】

2020年10月12日(月)10時～  
2021年1月10日(日)23時  
目標金額：70万円

11/10現在で21万円のご協力を頂いております。ありがとうございます。SNSを通し宣伝もさせていただいております。詳しくは紙風船のホームページをご覧ください。

人形劇団紙風船





## 映画 「普通に死ぬ」～いのちの自立～より

重い障がいのある人たちを通じて『普通』とは何かを問いかけるドキュメンタリー映画「普通に死ぬ」を観てきました。終了後に貞末麻哉子監督の舞台挨拶がありました。コロナ禍で「死ぬ」というタイトルは如何なものかという声が多くあったそうです。しかし、あえて『死』を正面から描いてこそ『生』の意味と向き合えるとの決意を込められたとのこと。貞末さんは、障がい児の親がわが子の将来を案じ「この子よりも1日でも長く生きたい」と口にするのを何度も耳にしたそうです。普通とは何か？親を追い詰めてしまう社会ではなく「その逆」を当たり前にしていきたいと願っていました。

映画は、2011年の「普通に生きる」の続編で制作期間は8年。その間に相次いで起きた二人の母親の死。医療的ケアの必要な利用者の中心的な介護者を失い、在宅生活が困難な状況となってしまうことから、施設入所をめぐる家族側と施設側の厳しいやり取りが本人を前にして繰り返されます。家族・兄弟・支援者それぞれの視点から思いがぶつかり、理念と現実のギャップが表面化していきました。この場面は他人事ではなく、愛実の会にも直結する問題であり心が動きます。医療的ケア+24時間365日の支援が必要となり、人材の確保からリスクや周りへの協力理解を考えると思いだけでは簡単なことはありません。普通なら安全なケアが受けられる、入所施設への選択が当然とも思われます。しかし普通とは何でしょうか？映画では、混沌とした状況から新たな展開へと広がっていきます。それはどんなに重い障がいがあっても、親亡き後、医療的ケアを受けながらも、生き生きと自立して地域で生活している人たちとの出会いでした。

生きて、生きて、生きて、普通に死ぬ。支援を続けている人たちは、心のふるえる体験を通して、正に「普通に生きる」ことの意味を何より大切にしていたのです。そしてこの出会いが希望の光となり、新たな支援体制で地域生活が始まっていきます。勿論、多くの課題があるわけですが、亡き母親の思いに、本人の心の叫び、死から生に向き合い大きな山が動いたと言えます。

是非、この映画を多くの方々に観ていただき、少しでもふるえる体験に共感できればと思う次第です。現在はコロナ禍で、社会全体が普通でない、異常な状態にあります。誰もが不便を感じています。人は心に余裕がなくなると、自分以外の人々よりも自分のニーズを大切に、他者を排除する方向性が強くなります。「普通」を考えることは人と人の間の共感を生むのかもしれない。ソーシャルディスタンスで物理的な距離はとつても、心の距離を縮め、互いの思いやりを大切にしていきたいと心より願います。



舞台挨拶後、貞末麻哉子監督と共に



## 年寄り扱いされないよ。

島 しづ子

愛実の会の皆さんと愛実の会を応援して下さっている皆様、こんにちは！

4月に沖縄に来てから半年が過ぎました。台風の度にご心配ありがとうございます。

私の一週間の基本的な習慣は日・水曜日がうふざと教会での奉仕。

火・土曜日は辺野古の海に行っています。辺野古行で感じていることを今日は書きます。住んでいる南城市から辺野古までは62kmです。行く日は5時に起きて、6時に出発します。10月末の今は暗くて月や星を見ながら出発です。途中金武湾が見えるあたりに来ると朝日が昇ってきます。すると天地創造の物語みたいな空が見えます。沖縄は海に囲まれているせいか雲の動きや形が独特で興味深いです。この景色をどうやって絵に描けるだろうかと思って、幾枚か描きました。趣味のなかった私が、絵を描いているのですから面白いでしょ。

「辺野古のテント2」と呼ぶ場所に着くと、7時半から船に乗る人、カヌーに乗る人がミーティングをします。ミーティングで今日の予定を確認してから船を出します。私は船の助手をさせてもらっています。船に乗る人は船舶免許資格を持っている人が多いので気が引けますが、船には二人以上乗る必要があるのでたまには役に立つので乗っています。船の役目はカヌーチームのフォローや海上保安官たちとのやり取りがあります。船に素人の私に若い人たちが教えてくれます。一番驚くことは誰一人私を年寄り扱いしないことです。だからできないことはできないとはっきり伝えてあります。初めのころ「船の免許取ったら」「カヌーを漕げたら楽しいよ」「ダイビングできると海の中が見えるよ」など会う人ごとに言われました。だから「こう見えても(?)72歳ですから」と断りを入れています。月から金曜日までカヌーを漕いでいる人の平均年齢は70代かもしれません。土曜日は働いている人も来ますから平均年齢が下がるでしょう。

海上は危険が多くて船長たちは「ここでこんな事故があった」「岩場には飛び降りない」等など事故例を話してくれます。「慌てなくていい」とも言います。ゆっくり、安全が大事なのです。でも急場では「だめです」などと直球で注意してくれます。

海では海亀にも逢います。珊瑚やかわいい小魚たちの群れも見ます。そんな透き通った海に異物のような新基地建設の擁壁が積み上げられて行っています。その景色を悲しく眺め、反対側を見ると手付かずの自然そのものがあります。カヌーの人たちも船長たちも海が大好きです。抗議行動の隙間に暑いと海に浸かったり、島に登って自然観察したりしています。青の洞窟と呼んでいる島の洞窟は何万年もかけてできたもので、自然の造形美に感嘆します。辺野古には400歳と言う浜珊瑚や青珊瑚と言う巨大な珊瑚群もあります。新基地建設に心を痛め、自然に癒される日々です。教会の先輩に「沖縄ではいつから、年寄りですか？」と聞きました。80歳の先輩の答えは「まあ、80歳からかな」でした。なので、若い人たちに混じって力仕事にも参加し、チャレンジングな日を過ごしています。冬は船の上も寒くなるというので冒険は続きます。というわけで、みなさん、「まだまだこれから！」ですよ。



【NPO愛実の会寄付者名(敬称略・順不同)2020年7月1日～10月30日】

★寄付金

杉本 誠	荒竹 ひろみ	黛 八郎	楽 有紀美
宮川 昭明	高橋 祐美	佐野 都吾	見木 靖美
榊原 喜代子	今枝 ミサ子	住田 貞次	木村 慎吾
下村 徹嗣	伊藤 英昭	阿部 健二	青本 光子
森 豊	武井 陽一	義井 裕子	福島 真
桂 正枝	風間 文子	持田 由美子	野沢 久枝
石原 艶子	岩田 妙	小栗 和子	木下 久美子
足立 克己	岡本 亜子	鈴木 あつみ	西川 道子
有賀 進	島 しづ子	細川 拓	榎本 久美江
矢口 由美子	佐藤 雅美	谷野 順子	比企 敦子
東 昌子	三矢 かな江	杉山 清美	柏木 實
曹 誉戸	堀尾 勇夫	水野 享好	三和田 良子
佐藤 千萬子	小島 真一	加藤 由美子	前田 榮子
近藤 洋	野崎 典子	加藤 真規子	金田 好美
伊藤 暁子	丸山 恵津子	矢澤 綾子	瀬口 昭代
古田 真喜子	河内 常男	三和 靖子	戸田 真二
五十嵐 靖	市原 誉子・信太郎		

伊藤 あつ子(複数回)  
在日大韓基督教会名古屋教会

吉谷 尚之(複数回)  
教団)岡崎教会こども会

★紙風船夢づくり

森 豊	佐田 秀子	伊藤 和子	五十嵐 和夫
宮原 祐子	竹山 徹	田中 孝子	渡辺 涉
後藤 宣彦	牧野 雅樹	佐藤 雅美	林 小夜子
永井 猛	酒井 淳子	牧野 みゆき	河合 みち子
川口 いづみ	荒竹 ひろみ	矢澤 綾子	石崎 亮史朗
西村 牧子			

★物品寄付

伊藤 あつ子 島 しづ子  
イオン(イエロー レシート)

(有)山健商店



ご協力ありがとうございました

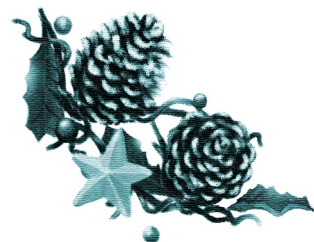


事務局からのお知らせ

会報をご覧になられている皆様には、コロナ禍の中お健やかに過ごしていらっしゃいますか？  
日頃は愛実の会にご理解とご支援をいただきありがとうございます。

### 寄付金について

新型コロナウイルス感染症予防対策のため  
アシスタント支援体制強化のため  
紙風船夢づくり(新作の人形制作等)のため



多くの方のご支援、ご協力に感謝申し上げます。引き続き愛実の会をよろしく願い致します。  
尚、当法人への寄付は寄付金控除の対象となります。寄付金受領証明書は1年分を大切に保管してください。

愛実の会の詳しい活動についてはホームページにて掲載しております。  
是非、ご覧ください。

### 【所在地・連絡先】

特定非営利活動（NPO）法人 愛実の会

- 居宅介護事業所あみ（ホームヘルプ）  
〒455-0021 名古屋市港区木場町9番地の24  
TEL：052-693-7645 FAX：052-746-2639
- 障がい者デイセンター愛実（生活介護）  
〒455-0021 名古屋市港区木場町9番地の24  
TEL：052-693-5897 FAX：052-691-7889

E-mail info@aminokai.com  
ホームページ http://www.aminokai.com

または 

愛実の会	検索
------	----

### 【「認定NPO愛実の会」寄付金のお願い】

郵便振替 □座番号 00850-6-187490  
□座名称 特定非営利活動法人 愛実の会 1□1,000円 何□でも結構です

- ◆ 寄付金（賛助会費・NPO愛実の会の活動に関する費用）
- ◆ 紙風船夢づくり（人形劇制作費、公演活動に関する費用）